

2018年度化学物質環境実態調査結果 地域別データ

調査名: 詳細環境調査
 調査媒体: 底質(ng/g-dry)
 地方公共団体: 山形県
 調査地点: 最上川河口(酒田市)

調査対象物質	測定値			報告時 検出下限値	検出下限値
	検体1	検体2	検体3		
[2] 2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピル=3-フェノキシベンジルエーテル (別名: エトフェンブロックス)	1.1	3.2	1.1	0.061	0.14
[6] 中鎖塩素化パラフィン類(アルキル鎖の炭素数が14から17までで、かつ、塩素数が4から9までのもの。)	nd	nd	nd	※※18	※※27
[6-1] 塩素化テトラデカン類(塩素数が4から9までのもの。)	nd	nd	nd	※※5.8	※※7.5
[6-1] 塩素化テトラデカン類(塩素数が5から8までのもの。)	※4.5	nd	nd	※※4.4	※※5.7
[6-1-1] テトラクロロテトラデカン類	nd	nd	nd	0.69	1.1
[6-1-2] ペンタクロロテトラデカン類	※1.7	※1.6	※1.5	1.4	1.8
[6-1-3] ヘキサクロロテトラデカン類	※1.6	nd	nd	1.5	2.0
[6-1-4] ヘプタクロロテトラデカン類	1.2	0.99	nd	0.76	0.99
[6-1-5] オクタクロロテトラデカン類	nd	nd	nd	0.72	0.93
[6-1-6] ノナクロロテトラデカン類	nd	nd	nd	0.72	1.2
[6-2] 塩素化ペンタデカン類(塩素数が4から9までのもの。)	nd	nd	nd	※※3.6	※※4.7
[6-2-1] テトラクロロペンタデカン類	nd	nd	nd	0.56	0.90
[6-2-2] ペンタクロロペンタデカン類	nd	nd	nd	0.63	0.82
[6-2-3] ヘキサクロロペンタデカン類	※0.79	※0.78	nd	0.65	0.84
[6-2-4] ヘプタクロロペンタデカン類	※0.93	※0.94	nd	0.79	1.0
[6-2-5] オクタクロロペンタデカン類	nd	nd	nd	0.57	0.74
[6-2-6] ノナクロロペンタデカン類	nd	nd	nd	0.42	0.68
[6-3] 塩素化ヘキサデカン類(塩素数が4から9までのもの。)	nd	nd	nd	※※5.1	※※7.8
[6-3-1] テトラクロロヘキサデカン類	nd	nd	nd	0.87	1.3
[6-3-2] ペンタクロロヘキサデカン類	nd	nd	nd	1.2	2.0
[6-3-3] ヘキサクロロヘキサデカン類	nd	nd	nd	0.76	0.99
[6-3-4] ヘプタクロロヘキサデカン類	nd	nd	nd	0.82	1.3
[6-3-5] オクタクロロヘキサデカン類	nd	nd	nd	0.82	1.2
[6-3-6] ノナクロロヘキサデカン類	nd	nd	nd	0.63	1.0
[6-4] 塩素化ヘプタデカン類(塩素数が4から9までのもの。)	nd	nd	nd	※※3.5	※※5.7
[6-4-1] テトラクロロヘプタデカン類	nd	nd	nd	0.61	0.99
[6-4-2] ペンタクロロヘプタデカン類	nd	nd	nd	0.66	1.0
[6-4-3] ヘキサクロロヘプタデカン類	nd	nd	nd	0.84	1.3
[6-4-4] ヘプタクロロヘプタデカン類	nd	nd	nd	0.60	0.97
[6-4-5] オクタクロロヘプタデカン類	nd	nd	nd	0.51	0.83
[6-4-6] ノナクロロヘプタデカン類	nd	nd	nd	0.32	0.51

(注1) 「nd」は不検出を意味する。

(注2) ※: 参考値(調査対象物質ごとに統一して設定した「検出下限値」未満)

(注3) ※※: アルキル基の炭素数別の検出下限値の合計値である。

(注4) アルキル鎖の炭素数が14から17までで、かつ、塩素数が4から9までのものの合計値を算出する際にはndを0として算出している。

(注5) 塩素数が4から9までのものの合計値を算出する際にはndを0として算出している。

(注6) 塩素数が5から8までのものの合計値を算出する際にはndを0として算出している。